

## 5月の窓

山形市では、桜が満開になった後に雪が降ったりして、寒い日がありましたが、5月5日は立夏、風薫る季節となりました。

この時期の風にどんな香りがあるのかわかりませんが、昔の人はこの風で夏が来たことを知り、かぐわしい香りを感じとったそうです。俳句の世界では「風光る」という春の季語がありますが、立夏の後には「風薫る」という嗅覚的な季語に変わっていきます。

### 風かほる 羽織は襟も つくろはず……芭蕉

芭蕉が風薫る季節に詩仙堂を訪れた時の句です。詩仙堂は江戸初期の漢詩人石川丈山が京都洛北に建てた庵で、そこで丈山の像を拝した芭蕉が、羽織姿の襟もつくろはない着流しの姿に深い感銘を受けて詠んだものと言われています。

4月には、本校にうれしいニュースがいくつかありあした。一つは、本校が本年度の「子ども読書活動優秀実践校」に選ばれたことです。文部科学省は、読書活動の推進に資するため、優れた取組等を行っている学校・図書館・団体などを表彰し、活動内容の充実を図りながら、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるよう努めております。平成25年度の優秀実践校として、本県からは本校の他に、山形市立明治小学校、遊佐町立遊佐小学校、村山市立図書館そして寒河江市の「いっちゃん会」が選ばれました。学校あげて行っている感想文や小論文の取組、図書委員活動として行っている読書クラスマッチや朝読書、そして図書館として利用しやすい環境整備などが評価されての受賞となりました。高校の受賞は全国でも少ないとのことで、これからも図書館を利用した読書活動を充実させていきたいと思えます。4月23日に東京で表彰式があり、担当の先生が表彰状をいただてきました。



もう一つは、卒業生から記念碑をいただき、4月25日に除幕式が行われたことです。本校の卒業学年には、その学年にちなんだ名前がつけられています。たとえば、創立70周年に卒業した学年には、古希の祝いの二字をとって「古希会」という名称がつけられました。昭和20年に当時の山形中学校に入学した学年は、入学後まもなく終戦を迎え、学制改革により誕生した山形県立第一高等学校を経て、その後第五高等学校との統合により開校した山形東高等学校の第1期生として卒業されました。そのため「東一会」という名称がついています。東一会の学年までは、クラスの名前に「正」や「忠」などの徳目が使われていました。明治42（1909）年に当時の板垣政一校長がこの方法を導入してから続いていましたが、終戦を機に「1組」「2組」という名称にかわっていきました。東一会の人たちは、入学した時は徳目学級でしたが、終戦後、数字の学級へとかわったわけです。全国でもあまり例のない徳目学級の最後の学年となった東一会の卒業生が、このことを記録に留めるとともに、戦中戦後に体験した大きな変動を後世に伝えるために記念碑を建立し、本校に寄贈されたのです。記念碑は正門わきに建てられ、黒御影石製で、本を開いた形のしゃれたデザインになっています。最初の写真は正面から見たもので、徳目学級のことが碑文として刻まれています。次の写真は裏の上から見たもので、戦中戦後の激動と混乱の時代のできごとが記されています。



5月2日、恒例の新入生歓迎駅伝大会が馬見ヶ崎河川敷コースで開催されました。クラス対抗の駅伝で、3.2Kmのコースを男子生徒10名、1.9Kmのコースを女性生徒8名と男子生徒4名でタスキをつないでいきます。私が以前勤務していた時も馬見ヶ崎河川敷の別のコースで実施していました。現在は、駅伝に出場しない生徒が、男女別に個人レースを行っているので、ほぼ全員の生徒が走るようになります。新入生歓迎と言っても、入学したばかりの1年生にはけっこう厳しいレースとなり、最上級学年の3年生が優勝することが多いようです。21年前、3年生を担当して

いた私も優勝した経験があります。今年は、終盤に3年生を逆転した2年4組が、3時間34秒53のタイムで優勝しました。写真は、男子個人レースのスタートの場面と、余裕でタスキをつないでいる教職員チームです。



「4月の窓」で、この20年間で変わったもの、変わらぬもの、以前からあったのに私が気づいていなかったものをいくつか紹介しましたが、今月から、そうしたものを紹介していきます。



写真は、正門入ってすぐ左にある「ヒポクラテスの木」と呼ばれるものです。ヒポクラテス(またはヒッポクラテス)は古代ギリシャの医者で、エーゲ海南東部のコス島に生まれ、医学を学びギリシャ各地を遍歴したと言い伝えられています。ヒポクラテスは、原始的な医学から迷信や呪術を切り離し、医学を経験科学へと発展させたことから、「医学の父」と呼ばれることもあります。島の中央にはヒポクラテスの木と呼ばれるプラタナスの巨木があり、この木の下でヒポクラテスが医学を教えたと言い伝えられているそうです。なぜそのヒポクラテスの木がここにあるのかと思いましたが、最後の写真の説明文に次のようなことがありました。山形中

学の卒業生の藤田秀男氏が1995年コス島を訪ね、ヒポクラテスの木の球状果を持ち帰って採り木し、鉢植えにして贈られたものだそうです。昭和61年の日付が見えるので、私が以前勤務した時もあったはずですが、今回初めて知りました。